日本産業衛生学会東北地方会ニュース

みちのく

No.70
12/28
2023

発行／令和 5 年 12 月 28 日・発行所／日本産業衛生学会東北地方会事務局
住所／〒980-8575 宮城県仙台市青葉区星陵町 2-1（東北大学大学院医学系研究科産業医学分野内）
電話／022-717-7874・FAX/022-717-7883・e-mail／sanei-michinoku@doh.med.tohoku.ac.jp・発行人/黒澤　一

第 82 回日本産業衛生学会東北地方会を終えて

第 82 回 日本産業衛生学会東北地方会 学会長
福島県立医科大学 医学部 衛生学・予防医学講座
教授　福島 哲仁

令和 5 年 7 月 21 日（金）および、22 日（土）に、コラッセふくしま（福島市）を会場として、「振り返りから前を向く産業保健～困難から導かれる新たな健康戦略」をメインテーマに第 82 回日本産業衛生学会東北地方会を開催しました。最終的に 155 名の参加者を迎え、盛会裏に終了いたしました。今年の 5 月に新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが「5 類」に移行し、学会も対面で開催することができるようになりましたが、様々な事情で会場にお越しいただけない方にも学会にご参加いただけるよう、一般口演、特別講演など一部の企画を web で同時配信いたしました。

7 月 21 日の事業所見学は、50 名が参加し、福島県伊達市梁川町にあります阿武隈急行株式会社で実施しました。今回のメインテーマに沿って東日本大震災、その後 2 度にわたる大地震、さらに豪雨災害にも見舞われながら復興を成し遂げてきた軌跡をたどりながら、災害時、その後の復興時における産業保健について実地で研修を行いました。懇親会は 50 名以上の参加者で会場がいっぱいとなり、福島県医師会の佐藤武寿会長にも来賓としてご列席いただき、ご挨拶をいただきました。参加した皆様には福島の日本酒、余興の「東北地方をもっと知ろう！」クイズなどを楽しんでいただきました。

7 月 22 日の午前は、一般演題の発表を行いました。10 演題ご発表いただき、会場では活発な議論が交わされました。座長をお引き受けいただきました青森県立保健大学の千葉敦子先生、岩手医科大学の丹野高三先生、秋田大学の野村恭子先生には心より感謝申し上げます。午後の特別講演は、福島県立医科大学医学部災害こころの医学講座主任教授の前田正治先生に「災害と支援者危機：原発災害後の被災自治体職員のメンタルヘルスを考える」と題してご講演いただきました。災害時にはその支援にあたる人も被災者であることも多く、長期にわたる復興過程においてその視点の重要性をお話しいただきました。その後は産業医部会、産業保健看護部会、産業衛生技術部会、産業歯科保健部会がそれぞれに企画を開催しました。産業医協議会では、岡山大学の神田秀幸先生に「産業保健の視点からみたアディクションの課題と予防」と題して、産業保健看

護のつどいでは、福島学院大学の梅宮れいか先生に「誰もが働きやすい職場の実現に向けて～LGBT についての理解を深める」と題して、産業衛生技術部会では、（株）DNP テクノパックの近嵐修一先生に「喫煙開始予防教育について」と題して、産業歯科保健部会では、青森県立保健大学の伊藤瑠美先生に「企業歯科健診における歯科衛生士の活動」と題してそれぞれご講演いただきました。最後まで熱心な討論が続きました。

本学会は、一般社団法人福島県医師会と共催で開催いたしました。福島労働局並びに福島県産業保健総合支援センターにご後援いただきました。公益財団法人福島県労働保健センター、一般社団法人福島県労働基準協会よりご協賛を賜りました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

第 83 回 日本産業衛生学会東北地方会開催要項(第 1 報)

1. 会期：2024 年 7 月 26 日(金)～27 日(土)
2. 会場：東北大学医学部星陵オーディトリアム
   （〒980-8575　宮城県仙台市青葉区星陵町 2-1　東北大学医学部内）
3. 内容
   1) 7 月 26 日(金)：事業所見学 懇親会
   2) 7 月 27 日(土)：一般口演，役員会，総会，特別講演，各部会行事
4. 事務局
   東北大学大学院医学系研究科産業医学分野
   第 83 回日本産業衛生学会東北地方会事務局
   Tel & Fax：022-717-7874

令和 5 年度日本産業衛生学会学会奨励賞受賞 おめでとうございます！

第 96 回日本産業衛生学会にて、東北地方会員でおられる福島県立医科大学医学部衛生学・予防医学講座　各務竹康先生が、ライフワークとされておられます、熱中症に関する研究成果等の業績により、令和 5 年度日本産業衛生学会学会奨励賞を受賞されました。各務先生は、産業医部会幹事の他、若手研究者の会、温熱環境研究会など学会の様々な分野でご活躍されております。東北地方会一同、各務先生の受賞を心よりお慶び申しあげますと同時に益々のご活躍を祈念申しあげます。

各務竹康先生より、東北地方会員宛てに奨励賞受賞のご挨拶をいただいておりますので、次頁にご紹介させていただきます。

奨励賞受賞報告

福島県立医科大学 医学部 衛生学・予防医学講座
各務 竹康

この度、第 96 回日本産業衛生学会にて奨励賞を受賞させていただきました。本当にありがとうございます。5 月 10 日に表彰式、12 日に「現場からの着想を大切にした産業保健の研究と地域への還元」と題して受賞記念講演を行いました。講演では私自身の歩みを振り返るとともに、皆様への感謝を伝える機会となったかと思います。今回の受賞にあたり推薦いただいた福島哲仁先生、黒澤一先生にお礼申し上げます。

2010 年に福島県立医大に赴任し、産業衛生学会に入会、産業保健の世界と深く関わることになりました。産業医活動、産業医学の研究、どちらも最初は手探りの状態で走り続けてきました。地方会での発表を重ね、多くの方の指導を受けながら研究者として成長させていただきました。多くの重鎮の先生が、夜の懇親会では非常に親しく話しかけてくださり、安心していたら翌日の一般演題ではうってかわって鋭い眼光で痛いところをつく質問をなげかける、緊張と緩和の中で鍛えられ、かなり現場での度胸がついたかと思います。

私の最大の転機は、第 89 回日本産業衛生学会を福島県で開催したことです。まだまだ学会のことを十分に分かっていない私を事務局長に指名していただき、多くの方の力を借りながら無事に開催することができました。学会の開催にあたり、東北地方会の皆様からは多大なるご協力をいただきました。前年の大阪での学会で、福島市のマスコットキャラクター“ももりん(興味ある人は調べてください)”を引き連れ、PR したこともいい思い出です。

東北地方会は他の地方会と比較した場合、小規模な地方会に分類されますが、お互いに顔が見える関係となっています。私も毎年の地方会を楽しみにしております。初めてで知り合いがいない方も一度参加すれば皆顔なじみになれます。今回の奨励賞受賞は東北地方会に育てられ、支えられての受賞でした。本来であれば皆様に個別にお礼すべきところ、紙面にてのお礼となりますこと、ご理解いただけたら幸いです。

最後に研究のことを。現在私は熱中症予防をテーマとして様々な研究を行っております。労働現場における熱中症は年間 500 件ほどで、高止まりが続いております。一方で熱中症は労働災害としては典型的な“避けられる”、”避けるべき“労働災害だと考えております。熱中症の危険因子、予防因子は様々言われておりますが、まだまだ十分な結論には至っておらず、今後も様々な分野でのエビデンス構築が求められております。その理由としては、熱中症の現場での研究は発症者を対象とした後ろ向き研究が主で、発症前の人を追いかけた前向き研究が少ないことにあるかと思います。労働現場は社員全員を追跡できる、熱中症の研究フィールドとしては最適な環境です。熱中症撲滅に向け、今後も研究を進めます。

改めて皆様に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

産業医部会

産業医協議会を開催して

医療法人健友会　本間病院
菅原　保
福島県立医科大学医学部衛生学・予防医学講座
各務 竹康

福島市で 7 月に開催された第 86 回日本産業衛生学会東北地方会において、産業医協議会を実施しました。今年度は、以前福島県立医科大学にも所属されていた神田秀幸先生(岡山大学学術研究院医歯薬学域公衆衛生学　教授)をお招きし、「産業保健の視点からみたアディクションの課題と予防」と題して講演をいただきました。

用語として「中毒」と「依存症」が違うことは認識しており、アルコール中毒とアルコール依存症の使い分けについては講義で学生に説明しておりましたが、現在は薬理作用の有無により“dependence(依存)”と”addictive behavior(常習行為)”の両者に明確に区別されており、”addiction(嗜癖)”はその両者をまとめた包括的な概念であること、アディクションには様々な類型があり、医学的、社会的に対応が必要なこと、薬物治療を行う際は、その薬理作用により、職業によっては就業上の制約が発生すること、コロナ禍によってネット販売による競馬の売り上げが増加していることなど、産業医として学ぶべき様々な知識を教授いただきました。

講演終了後の質疑応答でも活発な議論がなされました。時間の制約上、全員を指名することができず、心苦しい限りでした。終了後も個別の質問があり、この話題についての皆さんの関心の深さがうかがえました。オンライン併用で行いましたが、こちらも多くの方にご視聴いただきました。また、本協議会は日本医師会認定産業医の研修会としましたが、地域で産業医活動を行っている多くの先生方にもご参加いただきました。

今後も産業医部会メーリングリストで日常の産業医業務に役立つ情報を発信するほか、産業医協議会を、さらに有意義な学びの場、情報交換の場にできたらと考えております。改めまして今回の地方会、産業医協議会にご参加いただいた皆様にお礼いたします。

産業保健看護部会

産業保健看護部会報告

東北地方会　産業保健看護部会　幹事
NTT 東日本　総務人事部医療・健康管理センタ
村越 亜弥子
山形大学大学院医学系研究科看護学専攻地域看護学分野
森鍵　祐子

産業保健看護部会主体で開催する第 2 回の産業保健看護部会学術集会を 2024 年 10 月に開催予定です。今回は、来年の第 34 回日本産業衛生学会全国協議会の最終日の午後（2024 年 10 月 5 日 PM）に同時開催の形式になります。テーマは「産業保健看護活動の見える化と共有」。日々の活動報告や事例報告等、ディスカッションをメインとした参加型の会となる予定です。全国学会で発表するのを躊躇している方、まずは規模の小さいこちらの学術集会で発表してみるのはいかがでしょうか。

また、産業保健看護専門家制度に登録されている方、登録状況はいかがでしょうか。制度開始から順調に増えていた登録人数が、このたび 1000 人を切りました。どうやら更新せずに脱落していくケースが多い様です。特に旧制度から移行している方に多く見られる様です。現在、専門家制度委員会ではコロナ渦の対応として無条件で 1 年延長を認めるなど、救済措置を実施しています。今一度ご自身の登録有効期限をご確認頂き、知らない間に脱落することのない様に更新の手続きをお願い致します。

そして東北は産業保健看護部会に登録している人数自体も減少傾向にあります。退職されて卒業される方がいる中で、新たに入会される看護職が少ないためです。もし未入会の方が周りにいらっしゃいましたら、是非お声がけをお願いできればと思います。看護部会としては、入会している特典を今後も増やしていくことを、色々と検討中です。

そして東北の産業保健を皆で盛り上げていきましょう。

産業衛生技術部会

産業衛生技術部会活動報告

東北地方会幹事
河合 直樹

■東北地方会（福島市：7/22）

毎回、技術部会では、主に開催地で活動しておられる部会員から話題提供をいただき、気軽に情報交換する場を提供してまいりました。今回は、(株)ＤＮＰテクノパックの近嵐修一氏（衛生管理者）から「喫煙開始予防教育」に関する話題提供をいただきました。その要旨は下記のとおりです。製造業における衛生管理者の活動の実態を知る良い機会となりました。ありがとうございました。

～「喫煙開始予防教育」について～

(株)ＤＮＰテクノパック　近嵐 修一 氏

喫煙率は年々減少し、ピーク時の 1966 年（男性 83.7%・女性 18%・成人 49.4%）と比較すると 2019 年の調査結果（男性 27.1%・女性 7.6%・成人 16.7%）は大幅な減少となっている。実際に 1966 年当時は、健康な成人男性であればほとんどの人が喫煙しているといっても過言ではなかった。それでも、今なお成人男性の 4 人に一人は喫煙しているという事を考えると、喫煙という習慣の根強さに驚かされるばかりである。実際にこの 27.1%の喫煙者の中で禁煙、卒煙について考えたこともないという人は少数であろうと推測する。これはあくまで聞き取りのレベルではあるが、喫煙習慣を持つ人 200 人に口頭で「タバコを止めたいか？あるいはやめようと思ったことがあるか？」と質問したところ、200 名中 199 名が止めたい、あるいはやめようと思ったことがあるとの回答であった。喫煙には強い依存性があることは周知の事実であり、禁煙するためには困難が伴う。それにより禁煙の失敗例は枚挙にいとまがないし、「私は禁煙の名人だ。もう何度も禁煙している」という落語の枕にすらなっている。私は企業の教育を担当しており、高卒新入社員の研修に際して、喫煙開始を予防する教育を実施することとした。現在 5 年目であり、65 名の新入者に対して喫煙開始予防教育を実施した。健康増進法の改正もあり、高卒新入者が喫煙専用室へ立ち入ることを禁ずることに対する説明の必要もあり開始した教育であるが、教育開始以前の新入者と比較して喫煙をするようになった者は減少している。喫煙をやめることには困難と苦痛が伴うというのであれば、初めから吸わなければよい。そのための教育を試みることで今後の喫煙開始者を抑制できるのであれば継続する価値があると思われる。

話題提供する近嵐修一氏と参加者

産業歯科保健部会

産業歯科保健部会報告

産業歯科保健部会幹事
井川 資英

新たに産業歯科保健部会に入会されました、**根本充康先生**のご挨拶を掲載させていただきます。

ご挨拶

ねもと歯科クリニック 院長　根元 充康

歯科医師の根本充康と申します。

この度は歯科部会の井川資英先生に声をかけられ、日本産業衛生学会、歯科保健部会へ入会させていただくことになりました。

私は仙台市の郊外で開業し、地域の歯科保健医療にどっぷりつかっていました。開業後 5 年ほどで仙台歯科医師会の学校歯科委員会に携わり、その後、宮城県歯科医師会の地域保健部会で 10 年以上、宮城県の歯科保健事業や歯科健診事業を担当しています。

以前はう蝕と歯周病が歯科のメインとなるものでした。いかにして早期発見早期治療を、そして予防事業ではフッ化物洗口の拡大等も行っていました。最近はオーラルフレイル対策事業も取り込むようになってきましたので、試行錯誤の対策事業を考えて実行しています。

歯科健診事業に関しても、厚労省の事業所に対する助成金や、保険者の後期高齢者医療の支援金（歯科健診にかなりのインセンティブがあります）のため増加傾向がみられて、歯科健診を行う事業所はかなり増加しています。また実施団体による診断基準の違いも問題になっています。さらに追い打ちをかけるような、事業所の規模によらない歯科特殊健康診断の義務付けにより、マネジメントが大変になってきています。この健診の協力歯科医師の再研修も必要ではないかと感じています。

今までは、様々な歯科保健活動を実施している団体や企業と協働し、住民を対象に歯科保健活動を行っていましたが、この会に入会したら、歯科医師を対象とし、それも自分を含めさらに研鑽を積む必要があることを実感しました。

現在は東北地区の先生方と情報交換などを行なっています。今後ともよろしくお願い致します。

自由集会開催報告

日本産業衛生学会 職業性呼吸器疾患研究会 第４回独自集会

今回は「じん肺の温故知新」と題して、産業衛生関係者、医療従事者向けの講演を行いました。全部で 79 名の方の参加がありました。第一線の講師からじん肺を網羅的に学ぶ貴重な場になったと考えております。今回の演題と講師は以下の通りです。

一般講演

１.「細胞解析技術を用いた酸化インジウムまたは結晶質シリカ誘発ラット肺病変の検討」
　山野壮太郎先生　独立行政法人労働者健康安全機構日本バイオアッセイ研究センター
　動物実験を用いたじん肺病態生理の基礎研究についてお話しいただきました。

２.「インジウム肺：コホート研究の概要」
　中野真規子先生　労働安全総合研究所化学物質情報管理研究センター疫学研究部
　インジウム肺発見の経緯、管理基準の確立、病態生理、治療などをお話しいただきました。

教育演題

１.「じん肺の病理組織像」
　岡本賢三先生　北海道中央労災病院病理診断科部長
　一般の教科書で見ることの出来ないほどの豊富な写真で基本を概説していただきました。

２.「じん肺・石綿関連肺疾患の臨床」
　三浦元彦先生　東北労災病院副院長
　じん肺から石綿まで臨床的な総説を非常にわかりやすくお話しいただきました。

３.「じん肺および石綿関連疾患に対する労災補償」
　横山 多佳子 先生　旭労災病院呼吸器内科部長
　じん肺の労災認定について、認定基準設定の変遷、背景まで含めてご説明いただきました。

先生方のスライドは総計 300 枚を超えました。資料集としてまとめ、ご参加の方々に配布し喜んでいただきました。じん肺の教科書としても優れものです。日本産業衛生学会東北地方会、高知大学環境医学教室、産業医科大学呼吸病態学、東北大学産業医学分野にも共催いただき感謝申し上げます。

＊会期：2023 年 11 月 18 日（土）13 時－17 時
　会場：東北大学艮陵会館
　（現地及び Web 参加によるハイブリッド開催）
　代表世話人：黒澤 一（東北大学大学院医学系研究科産業医学分野）

産業保健看護とうほく

第43号　2023．12
発行者：日本産業衛生学会東北地方会
産業保健看護部会
連絡先：〒984-8519
宮城県仙台市若林区五橋 3-2-1
NTT 東日本　健康管理センタ　村越亜弥子
発行責任者：村越亜弥子・森鍵祐子

◎ 第 29 回産業保健看護のつどい ご報告

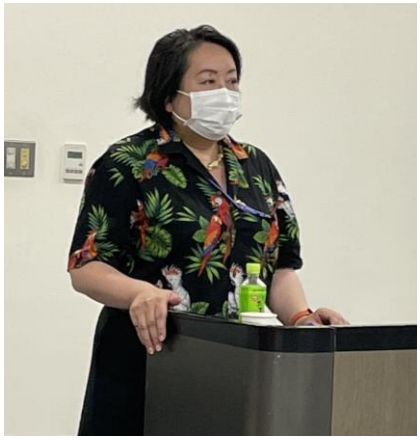
2023 年 7 月 22 日（土）、第 82 回日本産業衛生学会 東北地方会が福島県のコラッセふくしまで開催されました。ハイブリット開催となりましたが、コロナが 5 類に移行したこともあり、多くの方が会場に足を運んでくださいました。

第 29 回産業保健看護のつどいでは、福島学院大学の梅宮 れいか先生に「誰もが働きやすい職場の実現に向けて～LGBT について理解を深める～」というテーマでご講演いただきました。現地参加は 18 名、オンライン参加は 2 名で計 20 名の方に参加いただきました。

LGBT についての説明、どのくらいの割合存在しているか、LGBT の人たちがおかれている環境がどのようなものか、といった実態について理解を深めることができました。その上で、LGBT の人たちは差別や人権侵害を受けやすく、自分の存在が否定されていると感じながら苦しみの中生きていることが分かりました。それは会社内でも同様であるため、そのような人たちの味方になってくれる人（アライ）が一人でも多く存在することが働きやすさにつながっていくことが分かりました。

理解するだけでなく、寄り添う存在であることが大切です。講義から学んだことを、今後の活動に生かして行きたいと思います。

◆部会長 村越さんの挨拶◆



◆梅宮れいか先生◆

◎ 各県の産業保健看護部会活動報告（2023 年 7 月時点）

[青森] ◆3/13産業看護者研修会が開催され、“産業看護とナッジ”をテーマに、竹林先生の熱い講義があり県内の産業看護者から好評であった。
◆コロナが5類となったが、医療機関の体温測定、消毒等感染対策はほぼ維持されており、県内食品系製造工場も同様な状況である。一部事務系職域ではパネルの撤去など緩和の動きがある。
◆特殊健診の変遷の中で『化学物質の自律的管理』がスタートしたが、事業所の理解にバラつきがある。今年から対象事業所のマスクフィットテストの年一回実施義務が課されている。

[秋田] ◆秋田県産業看護職の会のメンバーに向けて、産業保健に係るメール配信を月 1-2 回継続中
◆6/14産業看護職研修会として産保センター主催で、働く女性の健康を考える・合意形成について考えようというテーマで研修会を実施。
◆県（口腔保健）や労働局・監督署（メンタル者の両立支援、腰痛予防）、北海道産保センター（腰痛予防）との共催研修を実施しており、地域・職域連携の推進のため、HP やメルマガ、郵送などで情報発信を実施している。

[山形] ◆3/16 地域保健・職域保健連絡推進事業として、保健所主催で「ナッジ理論を活用した保健指導」の研修会を実施。3/21 県医師会主催で禁煙指導研修会実施。5/17 産保センター主催で森鍵教授が講師となり看護職事例検討会を実施。また、産業メンタルヘルス研修会も月一回実施継続中。その他、認知行動療法の研修や、県・山形大学・保健医療大学で連携し、自殺予防にも取り組んでいる。

[岩手]◆産保センターの認知度向上および事業の周知啓発活動として「岩手県地域両立支援の取り組み」「メンタルヘルス対策」に関する個別訪問支援 117 件、電話での相談対応 67 件、事業所や医療機関等への研修会講師派遣 5 件等を行っている。出張相談窓口も増設し、DM、アンケートを実施しながら推進活動を行っている。今後は、保健師独自の活動がない県南地域の研修会を実施検討中。多方面で連携をしながら働き世代への健康教育や、自殺予防についても取り組んでいく予定。

[宮城] ◆宮城産業看護職 ML にて学会・セミナー情報など定期的（月 1-2 回程度）に配信継続中。
◆仙台産業医学推進協議会主催で 4/25 睡眠と労働安全衛生、COVID19 対策の緩和、7/11 騒音障害防止のためのガイドライン改訂について、騒音の事例検討を実施。
◆産業保健職を対象に、毎月第 3 金曜日「勤労者の健康に関するネットワーク（きんねこ）」を継続して開催中。

[福島]◆福島産業看護研究会（インテル）にて勉強会を定期開催中。会員数 10 名だが、参加率が上がらず少人数での開催となっている。3 月メンタルヘルスについて、5 月発達障害について、7 月産業衛生学会の報告（情報共有）を実施。
◆福島産保センター主催で研修を実施しており、4-6 月は若年労働者の心理特性を理解した職場対応・職場適応、熱中症対策、有害業務の法令、衛生管理者の役割について、7 月以降はアルコール・ギャンブル依存症やアンガーマネジメント、パワーハラスメントなどを予定している。

【編集後記】
2023 年度は何年振りかの楽しい親睦会や、対面メインでの学会が開催されました。直接会って交流できる機会がこんなにもありがたいものかと改めて感じた瞬間でした。（福島：永山未来）

東北地方会長よりご挨拶

みちのく発刊によせて

日本産業衛生学会東北地方会会長
東北大学大学院医学系研究科産業医学分野
教授　黒澤　一

クリスマスと年の瀬の季節となり、新年を迎えようとしています。令和 5 年、社会を変えてしまった新型コロナウイルス感染症は 5 類感染症となり、あらたな展開で社会が動き出した年でもありました。人々はあらためて営みを取り戻しつつありますが、感染症の他、国際的な紛争、気候変動や災害、国際経済、少子高齢化、社会の多様性なども無関係ではいられない状況です。

働く人々の健康と安全をどう図っていくか、産業保健の様々な課題に取り組み、私たちは役割を果たしていくことになると思います。会員の皆様には、どうか自身の健康に気をつけていただき、なお一層のご活躍を祈念する次第です。

最後に、令和 7 年 5 月、東北地方会が主管し第 98 回日本産業衛生学会が仙台国際センターで開催される見込みになっています。企画運営委員会などの組織づくりを固めて、準備をしていくことになります。諸先輩の先生方のご指導ご鞭撻および会員皆様方のご支援ご協力を心よりお願い申し上げる次第です。新年明けて令和 6 年の 7 月には、例年どおり地方会が開かれますが、仙台で開催予定です。次の年の開催にむけた計画などについても、みなさんのお知恵をいただくことになるかと思います。重ねてよろしくお願い申し上げます。

編集後記

「みちのく」第 70 号をお届けします。7 月福島市で開催されました第 82 回日本産業衛生学会東北地方会では、盛会となり、また、4 年ぶりに懇親会が開催され、地方会会員の皆様と親睦を深めることができました。学会長の福島先生をはじめ、福島県立医科大学衛生学・予防医学講座の皆様、福島県の地方会員の皆様に深く御礼申し上げます。例年にない猛暑が続いた 2023 年も終わろうとしています。2024 年も東北地方会員の皆様にとって良い年になりますよう、祈念いたします。2024 年も宜しくお願い申し上げます。良いお年をお迎え下さい。

（年末ぎりぎりの発刊となりましたこと、お詫び申し上げます。早々に原稿をいただいた先生方、すみませんでした。）（T.I.）